



海岸に現れたアオバト(大山町)

米子市 文化活動館 通信



海水を飲むアオバト(大山町)

本年度の講座が順次始動



館長 中村輝彦

コロナ禍3年目となる今年は、経済の回復に舵を切り、各地で感染に留意しつつも夏祭りなどのイベント開催が計画されています。ただ、現在、全国的に感染者数が増加傾向に転じ、山陰地方の状況が気になります。

さて、文化活動館は6月から、本年度の各種講座が順次スタート致しました。いずれの講座も多くの方にお申込みいただきました。講座は、身体的健康やこころの健康に寄与できるものと考えています。こころの健康は、

自分の感情に気づいて表現できる「情緒的健康」と現実的な問題解決ができる「知的健康」、他人や社会と良好な関係が築ける「社会的健康」を意味するのは、ご存じの通りです。講座を通して、共通の目的を持って集まった初対面の参加者同士の交流が深まるなど、お互いのこころの健康増進の一助になれるものと考えています。

一方、文化活動館設置目的の「文化活動の促進とふるさとへの意識高揚、観光振興」を実現するために、がいな太鼓の練習拠点としての役割と、弓浜緋体験教室や織物教室の開催を通じて米子市をはじめとする県西部地域の発展に少しでも貢献したいと思います。

弓浜緋の世界(番外編)

文様 ①

弓浜緋は、生活用具や動植物、吉祥文、物語などの「具象文」をはじめ、四角や丸、うろこなどの「幾何学文」、抽象的な表現などの文様が見られます。その一部を写真で紹介します。今回は、具象文の中でも代表的な文様ともいえる「松に鷹」、鶴や亀などをあしらっためでた尽くしの「長寿文」です。



松に鷹



長寿文

大山の森から海水を飲み現れるアオバト 森の奥深くで生活しながら、海岸に飛来して海水を飲む珍しい習性のハトをご存じでしょうか。「アオバト」と呼ばれるハトで、鳥取県内にも生息しています。海岸への飛来は今の時期がピークで、大山(1729㍍)などの森から飛び立ったアオバトの群れを、大山町の海岸で観察しています。海岸には、春から秋にかけての日中に飛来するのですが、特に8月ごろは頻りに姿を見せま。ところで、なぜ海水を飲むのでしょうか。残念ながら、その明確な理由は解き明かされていません。一説では、アオバトは森で主に木の実を食べて暮らしているため、不足するミネラル分を海水で補っているのだといわれています。観察では、海水の飲み場はほぼ決まっています。森から訪れたアオバト約10羽の群れは、最初に海岸近くの防風林で周囲の安全を確認した後、一斉に飛び立って、波打ち際を目指して突進し、海水をごくりと飲んで素早く引き返しています。これを何度か繰り返します。極めて警戒心が強いのです。アオバトの鳴き声は、街中のハトとは全く異質です。暗く深い森で「アーオー、アオアー」などと鳴くのですが、未知の動物の吠え声のように聞こえ、不気味な感じです。なお、鳥名はアオバトですが、身体は緑色です。古代日本の色表現は、明(赤)、暗(黒)、顕(白)、漠(青)でした。青は、極端に言えば赤黒白に該当しない寒色系の漠然とした色とみられています。このため、緑色も青色なのでアオバトと名付けられたようです。緑色が青色とされる類例は、現代も信号機の「青」や青葉の「青」などにみられます。(文、写真とも山根)



木
洩
れ
日
散
歩



高機を操って織りに挑む受講生

弓浜紺体験教室が5月17日に開かれました。工房ゆみはまの田中博文代表ら2人の指導で、受講生11人が綿を種と繊維に分ける綿繰り機や糸を紡ぐ糸車、糸を織る高機(たかはた)を使用し、紺織の一連の流れを学びました。



糸車の使用方法に取り組む受講生(左)



綿繰り機で種を除く受講生

文化活動館の織物教室で作品製作を経験した受講生がさらに上達を目指す織物教室初級講座が6月21日にスタートしました。また、初心者が対象の織物教室入門講座も6月28日に開講しました。両講座とも、9月までの全6回行われます。

学べる講座 アラカルト



織物教室初級講座で上達を目指す受講生



スタートした織物教室入門講座



実用書道教室で熱心に筆を走らす受講生



ベーシックヨガ教室で学ぶ受講生



文化活動館周辺の除草作業を5月22日、利用者の皆さんと職員計16人で行いました。

休館日 ◆8月=毎週水曜日と11日(木) ◆9月=毎週水曜日と19日(月)、23日(金)

利用時間 開館日の利用は平日と土曜日が9:00~22:00(日曜日は17:00まで)。部屋貸し出しは閉館の15分前まで。



あとかき



父が今年の1月に亡くなり、庭の管理が私に回ってきました。草取りや剪定、水やりなどを行う必要があります。元々植物は好きでありこれまでバラなどの栽培をしてきました。最近では「ヤマボウシ」「白梅」「ライラック」の苗木を植えました。中でも好きなのはライラックで西欧が原産でフランスでは「リラの花」と呼ばれています。種類は白い花が咲くものと紫の花が咲くものがあり、来年の5月頃に花が咲きます。植物には癒されます。(八)

お申し込み・お問い合わせは 米子市文化活動館 ☎0859(34)5154

〒683-0802 鳥取県米子市東福原8丁目24-31 FAX=0859(30)4788

米子市文化活動館 指定管理者 旭ビル管理株式会社 <https://asahibiru.com/ybkk/>